

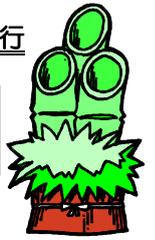
石部南学区

まちづくり協議会広報

平成23年1月15日発行

第13号

広報部会



発行：石部南学区まちづくり協議会 湖南省石部南3-5-1 石部南まちづくりセンター内 電話 0748-69-7068

年頭のあいさつ

会長 市川 徹二

新年あけましておめでとうございます。ご家族全員で楽しいお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。

光陰矢の如しのことわざどおり「まちづくり協議会」も設立後、あっという間に3年目を迎えております。この間皆様方には多方面にわたり、ご支援ご協力頂き誠にありがとうございました。



さて、この1年を振り返りますと3月の「史跡探訪ウォークラリー」7月の「いもち送り」8月の「地震防災研修」「地元野菜の販売」10月の起震車を中心とした「防災訓練」等の実施。そして11月の「ふれあい祭り」には、小学校・幼稚園・保育園の子供たちに沢山の作品を出品して頂き、またグラウンドゴルフ・竹細工・そして個人の得意芸の披露と盛り沢山の演出により1,000人弱の方々にご参加を頂きました。併せてこの11月には各団体のご協力の下「声かけ・あいさつ運動」を実践。ご協力本当にありがとうございました。これらの活動については都度「広報紙」でご紹介させて頂いておりますが今後も引き続き「行事」の実施等紹介を続けていきたいと考えております。今年はウサギ年、ウサギのような大きな耳をもって皆様方のお声を聞き取り、そして吸収して沢山喜んで頂ける活動を提案できるように協議会メンバー全員で頑張ってみますので、今後ともご参加、ご協力よろしくお願い致します。

今年も皆様方にとりまして、よい年でありますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



新年のあいさつ

湖南省長 谷畑英吾

明けましておめでとうございます。

皆様ご壮健に平成二十三年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、貴まちづくり協議会において、地域まちづくりフォーラムでの活動報告、防災訓練、また、ふれあい祭とさまざまな面で地域の皆様と共に事業に取り組んでいただき有難うございました。特に、地域コミュニティの希薄化が進むこの時代において、ふれあい祭ではこれまで以上の企画と盛り上がりで、学区民の皆様が有意義に楽しみながら地域住民の交流の場となったことと思います。

また、来年度予算となります「きらめき湖南」枠へも、地域担当職員も交え熱心に検討され、地域ならではの企画書を提出いただきました。今後、ますます住民参加のまちづくり協議会として発展しますことをご期待いたします。

最後になりましたが、皆様にとって飛躍ある良い年でありますようお願いし、新年のご挨拶といたします。

人づくり部会

人づくり部会では、11月を「声かけ・あいさつ運動強化月間」として取り組んできました。各区

や関係施設に「啓発用のぼり旗」の設置をお願いし、活動協力をいただきました。

また、11月20日(土)から28日(日)までの9日間、じゅらくの里(研修館)を会場に「声かけ・あいさつ運動標語ポスター作品展」を開催し、子供たちの応募作品すべてを展示しました。期間中には、延200人という、多くの方に来ていただきました。「声かけ・あいさつ」は、豊かな人間関係を育み、住みよいまちづくりを進めるうえで、とても大切なことです。地域が一体となって、元気で思いやりのある「声かけ・あいさつ」を行っていきたいものです。

3月には、第2回地元学講座「昔遊び」を開催する予定です。



里山小川部会

地域の豊かな自然を守り住民の癒しの場とするための活動をしております。里山については、行政の支援をいただき、新たな活動拠点を探しています。小川については、「じゅらくの里」をホタル育成の新たなフィールドとして活動する予定です。

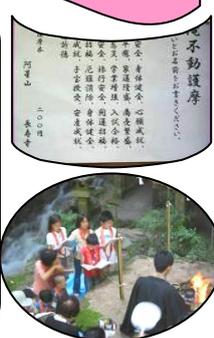
文化芸術部

スポレク部会

「石部南学区健康ふれあいウォーク」のご案内

- ☆ 目的：歴史探訪を主とした健康ウォーク。
- ☆ 日時：2011年(H23年)3月26日(土)9:00~
- ☆ 集合場所：じゅらくの里(研修館前)
- ☆ コース：①じゅらくの里⇒②紫雲の滝⇒③長寿寺⇒④じゅらくの里
- ☆ イベント：於じゅらくの里①宝探し②昔遊び③うどんの準備予定
(コースおよびイベントは一部変更の可能性あり)

- A：紫雲の滝⇒歴史の説明会、クイズ、食事券の配布
- B：長寿寺⇒講話、白山神社をも含めた説明
- C：その他⇒コースの道中では、植物・歴史の説明パネルを設置



も大盛況でした。

地産地消部会

石部南学区の夏祭り(宮の森・宝来坂自治会)では、地元で採

広報部会

石部南学区まちづくり協議会シンボルマークの募集

- ☆ 募集コンセプト：「石部南学区まちづくり協議会」を象徴するマークとし、簡潔・明瞭・親しみ易いもの。白黒・カラーいずれも可。ただし単色印刷を考慮。
- ☆ 作品の表現方法：A4紙またはデジタル文書(ワード・エクセル・イラストレーター等)
- ☆ 応募方法：郵送、メール(info@ishibe-minami.net)
- ☆ 締切日：平成23年2月28日(月)必着
- ☆ 応募資格：湖南市在住の小・中・高校生、湖南市内に在住・在勤する一般。
- ☆ 表彰：①最優秀賞 1名(1万円)②優秀賞 2名(各5千円)③佳作 6名(各2千円)
- ☆ 発表：石部南学区まちづくり協議会広報紙第14号(4月15日発行)に掲載予定。
- ☆ その他：応募作品は返還しませんので、必要に応じ応募前にコピー等をお願いします。
- ☆ 問い合わせ：石部南学区まちづくり協議会 0748-69-7068(土、日をのぞく)
詳細要項はホームページ参照 →→→ <http://www.ishibe-minami.net/>

「ふれあい祭り」アンケート結果(抜粋)

- ※ 模擬店に関して：①品切れが少し早かった。〈そば・うどん〉せめてお昼過ぎまで買えるように!!②おいしかった。(芋つぶし・カレー)
- ※ 展示・体験に関して：①各自治会行事の発表よかった。②天体観測がよかった。③誰でも簡単に体験できるものがあった。④もう少し身近なものの企画を!⑤健康チェックで、血流検査に興味があり申し込んだが、午前中で定員いっぱいとなったのが残念。もう少し定員を増やしてほしい。

各自治会活動だより

西寺・丸山区

11月23日(祝日)西寺集会所において収穫祭が行われました。地元でとれた食材を使い、そば打ち体験コーナー、いもつぶし、コンニャクづくりの3コーナーに分かれて、それぞれ腕を振るいみんなでおいしくいただきました。参加者は45名。



宝来坂区

10月17日「人権まちづくり懇談会」宝来坂地区住民の集いが、講師に大木会理事(元もみじあざみ寮寮長)石原繁野氏をお迎えし、もみじあざみ寮の歴史のお話に参加者一同感動でした。参加者は55名。



東寺区

10月17日(日)東寺新池において20数年ぶりに池の水抜きを行い、池に生息していた鮒等の魚を田の水槽に放し、子供たちによるつかみどりを行ない、東寺産のそばや、さつまいもを試食しました。参加者は120~130人でした。



地元産の野菜直売所 開設

初の試みとして、西寺水源地横に「地元産やさい直売所」が開設されました。湖南三山参拝にあわせた土、日曜の昼間の開店で、今後の展開は検討中だそうです。



餅つき大会

12月19日宝来坂集会所にて餅つき大会が約250名の参加で盛大に行われ皆でおいしく頂きました。



宮の森区

12月11日宮の森集会場において『ふれあい健康教室』が開催され、24名のお年寄りが健康で長生きするためには、食事を楽しく美味しく食べることが大切であるということ学びました。





◆天平浪漫（紫香楽宮と石部金山(かき)）（その3）

紫香楽の宮造営の頃、山岳仏教が盛んだった事は申し上げたが、北陸地方より多くの修験者が阿星山を仏神として入山し、信仰したと伝えられる。北陸地方からも数多くの献物資が送られ石部を通過し、紫香楽宮に運ばれたのである。この様に紫香楽宮に数多くの資材が石部地域から持ち運ばれたのであるが、どのような道順で運ばれていたのでしょうか？

天平14年(742年)1265年前2月に、東北から近江甲賀に通じる道が開かれた。とありその年の8月に紫香楽に甲賀寺が造営された。東北―北陸―東山道を経て野洲川を渡河したその地点は、現在の名神高速道路の下あたりで、伊勢落(伊勢大路ともいった)であるといわれている。当時は伊勢参宮道として、天智天皇の頃(667年)斉王群行等の伊勢道として整備された道が石部地先を通過していた。(この頃は倉歴道といった)東山道より倉歴道に合流した伊勢参宮の落ち合いの場であったのであろう。その当時の倉歴道は今の市道村崎線あたりであったと伝えられている。金山より掘出された鉱物や石灰は石部地先の倉歴道を通り落合川(白知川といった)を渡河し、柑子袋地先の上葦穂(あしほ)神社(白雉神社といった)の横を通過して東寺に入った。現在三雲養護学校の横に、山仕事の他は人が通らない薄暗く繁った灌木の山の中に一本の道があり、この道が紫香楽越えの入り口である。今は、200年前に建てられた道標が東寺の集落入り口にひっそりと紫香楽越えを示している。

宮造営には多くの人達や、牛馬が資材を背に紫香楽宮をめざして阿星山を越えたのである。この一本道は、1300年前からなんら変りなくそのままの姿をとどめている。当時の道名が今でも残され、山中の一本の林道を「馬海道」といい、道が狭しとばかりに多くの人馬が往来していた当時を思い浮かばされる。今は、誰一人として通行する者はなく林道となった道端に山の神が大木の根元でひっそりと祀られている。道は紫雲の滝を横に見て、阿星山頂に迎って山越をしたが、滝を過ぎたあたりから今は、通る人も無く道の管理が出来ず、山頂に達するには困難なようである。この道は、紫香楽の宮町地域に通じていた。

仏教を中心とした天皇政治の時代は聖武天皇の天平年間(729～749年)20年間(聖武天皇の年代は25年間―神亀元年724～728)に多くの寺院が良弁僧正によって創建され、特に紫香楽宮の造営にあたっては、石部地域から鉱物資が多量に調達され693mの阿星山を超えて紫香楽宮に運ばれた。全量が人馬の肩や背での力の運搬であり、又、鉱石の採掘もしかり、現在では想像もつかない重労働であったであろう。私たちの地域からも宮造営の為に多くの先人達が出没したのである。又、東北や北陸地方からも多量の物資が東寺地先の馬海道より阿星山を越え都造りの大きな夢を抱きながら紫香楽へと運ばれた。わずか3年ばかりの短い期間の聖武天皇の滞在ではあったが、近江の国に帝都を発願されたことは、意義深い出来事である。

私たちの先人が大きな夢を抱き、まだ見ぬ都を思いながら、黙々と帝都建設に協力されたのである。又、世界文化遺産となった熊野古道のように信楽に都が建設されていたら東寺地先の馬海道は産業道路として文化遺産的な存在であろう。 完 2007 夏